

令和6年度事業計画

21世紀はこころの時代と言われて随分時間が経過してきた。コロナウイルスの影響は未だ世界に大きな影を落としている。その中で元旦早々に発生した能登半島地震、少子高齢化による労働力不足、環境問題、デジタル化への急速な変化等々、現代社会が直面している課題は人々の精神を擦り減らし、誰もが心を痛める事象が多く散見されるようになってしまった。

私たち精神保健福祉士は、人のこころを取り扱う専門職である。令和の時代だからこそ私たちの出番ではないか。実際に様々な場面で精神保健福祉士に期待する声を聞く機会が増えてきている。

三重県精神保健福祉士協会は、それぞれのフィールドで活躍する会員の自己研鑽や仲間作りを後押しし、会員の専門性を高め、私たちの力を社会に還元していきたいと考えている。その為に、これまで検討してきた研修体制の本格実施、組織体制の見直し、広報体制の整備を進め、社会ニーズに対応できるように更なる組織改革を進めていく。

1. 組織及び人材育成、研修体制について

●会員の質の向上のための取り組み

- ・研修委員会による会員の意見を反映した質の高い研修づくりに努める。研修体制を検討する人員を大幅に増員し、会員の自己研鑽を強力に応援していく。
- ・研修体制を一新し、6月総会、12月大会（実践報告会＋企画研修）を中心にした2大研修制に移行していく。
- ・研修委員会が、地区ブロック単位の自主的な研修会、勉強会を応援していく。具体的には企画や運営について相談を受け、協力する。また、地区ブロックの実情等を勘案し、必要な後押しを行っていく。
- ・研修に関するアンケート結果など会員の意見を反映した研修を計画していく。

●地区ブロック活動の活性化に努める。

- ・地区ブロック役員は本協会からの情報を会員に伝達し、会員の意見を役員会等に吸いあげ、会員の意見を反映し効果的な研修会や組織体制の見直しに活かしていく。

●会員間の交流、情報交換の場、ネットワーク構築の場となることを目指していく。

- ・精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて、多分野で活動する精神保健福祉士が交流できる機会や場の検討をおこなう。

●公益社団法人 日本精神保健福祉士協会（以下、日本協会）や近隣県精神保健福祉士協会と協同し、個々の実情に適した研修等を提供する。

- ・ 験5年未満の会員については各所属を通して初任者研修会（三県合同）への参加を促

していく。

- ・ 日本協会への入会促進および生涯研修受講を勧奨する。
- 委員会、部会活動の充実（災害対策委員会、若手部会、精神医療審査会部会、精神保健参与員部会、精神医療部会等）
- ・ 当会では精神保健福祉士として社会に求められる事案について委員会や部会を立ち上げ検討している。昨年度は精神医療部会が地区ブロックからの要望を受け設置された。委員会・部会活動を後押しし、会員に有益な情報を発信していく。また、会員の活動参加についても推奨していく。
- さくらセットの活用
- ・ 日本協会が取り組んでいる研鑽ツールである「さくらセット」の活用を推奨していく。
- 入会促進に向けた取り組み
- ・ 各所属を通して入職者へ当協会の入会案内や協会規約、メーリングリストの登録方法等を案内し新入会員の促進に努める。
- ・ 入会申込書に入会動機や当協会へ期待することなど新入会者へのアンケートを実施し、入会促進に向けた具体的方策を検討する。
- ・ 各教育機関との連携を強化し、精神保健福祉士の魅力を発信することで新規会員の入会を促進する。
- ・ 旧会員への案内をおこない、再入会を促進する。
- 日本協会全国大会に当協会から派遣し、報告会を通じて当協会の会員へ還元することで、日本協会の魅力を当協会へ広げていく。
- 今後継続して安定した組織運営を行うため、会費の見直しについての検討を行う。
- ・ 会員のニーズに沿った魅力的な協会活動を行うとともに、継続した組織運営に向けた基盤整備を行っていくために、必要な見直しを検討する。

2. 研修会その他事業の実施

| 時 期 | 内 容 |
|--------|----------------------------|
| 4月13日 | 臨時三役会 |
| 5月11日 | 臨時役員会 |
| 6月2日 | 令和6年度定期総会・記念講演 |
| 7月 日 | |
| 8月 日 | |
| 9月 日 | |
| 10月 日 | 基幹研修 I（愛知県協会と共催） |
| 11月 日 | 三県合同 初任者研修（未定）幹事：岐阜県協会 |
| 11月 日 | ソーシャルワーカーデー企画 |
| 12月15日 | 三重県精神保健福祉士大会 |
| 1月 日 | 津ブロック企画「社会福祉士会 津支部との共催研修会」 |
| 2月 日 | |
| 3月 日 | |

3. 広報活動について

- ホームページについては、より見やすく、充実した内容へリニューアルを目指す。必要に応じて業者への委託も検討する。
- メーリングリストにおいては、地区ブロック用メーリングリストの運用についても検討していく。
- 会員に向けた情報発信や、会員の声が届けられるような内容を検討する。
- 活動に関するコラムや、会員へのインタビューなどお互いのことを知りあえる機会を創出していく。
- 既存のメーリングリストの活用について見直しをおこない、より情報発信のしやすいシステムを検討する。（既存のメーリングリストがサービス終了となるため）

4. 他団体との協働

- 三重県内のソーシャルワーカー関連団体との交流を進め、ソーシャルワーカーデー2024を共催する。各団体と協働し、地域社会への啓発を実施する。
- 三重県内のソーシャルワーカー関連団体と協力し、ブロック単位での交流についても推奨していく。

●日本協会との連携や東海北陸ブロック活動について

- ・愛知県および各県の精神保健福祉士協会との協働および交流を深め、相互の会員の質の向上を目指す。また公益社団法人 日本精神保健福祉士協会による東海・北陸ブロック単位での連携を充実させていく。
- ・初任者研修および宿泊研修について、愛知県協会、岐阜県協会と共催で開催する。
- ・三重県地域包括ケアシステムアドバイザー派遣事業に協力し、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組に参画していく。

5. 三重県精神保健福祉士協会として災害対策の促進

- ・災害対策計画の見直しを行う。
- ・災害発生時にはGoogleフォームを活用しての情報収集を運用していく。
- ・収集した情報を基に日本協会の災害対策のメーリングリストにも発信していく。